基本術式

ここから、初歩的な術式や病巣の処置手順、注意点を解説していく。
待ち受ける困難かつ複雑な手術の執刀を手際よく進め、
成功へ導くための基礎知識として役立てよう。

✓基本術式ページの見方

異物除去 1 使用器具

体に刺さった異物を除去、回収する際の基本の術式。ピンセットで異物をつかんで引き抜いたあと、画面右側に表示される回収トレイへと運ぶ。その後、傷痕にヒールゼリーを塗れば完了となる。ここで判定されるのは「抜き角度」と「抜きミス回数」、「トレイに運ぶときに異物を落とした回数」の3点。異物が刺さっている傷に対してほぼ垂直(88〜92度)で抜けばCool、ミスにならない角度(85〜87、93〜95度)で抜けたらGoodになり、角度が悪いと即Badとなる。なお、抜いたあとも しっかりと異物をつかんでおき、回収トレイにポインタカーソルの光点が当たる位置まで移動させてから離せば、異物を術野に落とすミスは起こさずにすむ。

●異物除去の手順 3
① ピンセット ……異物を抜く
② ピンセット ……異物をトレイに運ぶ
③ ヒールゼリー …傷に塗る

評価・判定ポイント 4
・傷に対してほぼ垂直に異物を摘出
・摘出時にミスをしない
・異物を落とさずトレイに運ぶ

①ピンセット FORCEPS
異物を一度つかんだら離さずに抜き切ること。離すとMissになり、その時点でCoolは取れなくなる。

③ヒールゼリー ANTIBIOTIC GEL
異物を抜き取ったあとに残る傷痕は、出血線・小のときと同様にヒールゼリーを塗って治療する。

1 名称と使用器具
術式および病巣の名前。名称右側のアイコンは、これらを処置する際に使用する手術器具を示す。

2 解説文
術式および病巣の特徴、執刀時の注意点などを詳細に解説した文。

3 処置手順
術式および病巣の処置手順。各手順において使用する手術器具と処置方法を示し、必要な場合は画面写真によって補足説明する。

4 評価・判定ポイント
術式および病巣の処置を高評価で成功させるために、知っておくべき注意事項。

バイタル回復

使用器具 

注射器を選んで患部に回復剤を投与する。バイタル低下を招く術式のまえには、必ず行なっておきたい。なお、多少だがヒールゼリーにもバイタル回復の効果がある。緊急の場合はそれも活用するといい。

●バイタル回復の手順
① 注射器 ………患部に薬を打つ
— ヒールゼリー …患部に塗る



①注射器 SYRINGE
次の手順に移るまえに回復し、患者のバイタルを安定させる。その慎重さが手術を成功へと導く。

出血線・小

使用器具 

異物を抜いた痕やメスでつけた小さな傷口などは、ヒールゼリーをその患部に塗布することで治療することができ、縫合する必要はない。術野に複数の切り傷がある場合は、一気にまとめて処置しておこう。

●出血線・小の手順
① ヒールゼリー …傷に塗る



①ヒールゼリー ANTIBIOTIC GEL
画面にOkと表示されれば処置完了だが、患部から外れていると時間がかかってしまうので注意したい。

出血線・大

使用器具 

ヒールゼリーで治癒できない大きな切り傷は、針と糸を使って傷を縫うという処置が必要となる。縫合は傷口に対してジグザグに行なうのだが、その際に「糸の長さが規定の長さ以上あるか」、「折り返しの左右幅が揃っているか」、「傷の中心線と縫合の中心線が合っているか」、「傷の角度と縫合線の角度が合っているか」、「折り返しの回数が少なすぎないか」という5つのポイントで処置の評価判定がなされる。すべてをパーフェクトにこなせばCoolを獲得できるが、これらのうちひとつでも許容範囲外の処置をすると、問答無用でBadになってしまうので注意しておきたい。すべての手順を終えて手術が終了すると表示されるRESULT画面で、ランクSといった高評価を得るためには、このような基本の術式でBadを取らないことが条件となる。

●出血線・大の手順
① 針と糸 ………傷を縫う

評価・判定ポイント
・縫合線の長さ、幅、中心位置、傷に対する角度が正確
・折り返し回数が規定数以上ある



①針と糸 その1 STITCHES
出血線・大は、すみやかに縫合。放置しておくとバイタルの低下を招き、それだけ手術時間が延びる。



①針と糸 その2 STITCHES
判定基準は、傷の長さによって変化する。傷ごとに縫合線の長さと折り返し回数などを調整しよう。

異物除去

使用器具 

体に刺さった異物を除去、回収する際の基本の術式。ピンセットで異物をつかんで引き抜いたあと、画面右側に表示される回収トレイへと運ぶ。その後、傷痕にヒールゼリーを塗れば完了となる。ここで判定されるのは「抜き角度」と「抜きミス回数」、「トレイに運ぶときに異物を落とした回数」の3点。異物が刺さっている傷に対してほぼ垂直(88〜92度)で抜けばCool、ミスにならない角度(85〜87、93〜95度)で抜けたらGoodになり、角度が悪いと即Badとなる。なお、抜いたあともしっかりと異物をつかんでおき、回収トレイにポインタカーソルの光点が当たる位置まで移動させてから離せば、異物を術野に落とすミスは起こさずにすむ。

●異物除去の手順
① ピンセット ……異物を抜く
② ピンセット ……異物をトレイに運ぶ
③ ヒールゼリー …傷に塗る

評価・判定ポイント
・傷に対してほぼ垂直に異物を摘出
・摘出時にミスをしない
・異物を落とさずトレイに運ぶ



①ピンセット FORCEPS
異物を一度つかんだら離さずに抜き切ること。離すとMissになり、その時点でCoolは取れなくなる。



③ヒールゼリー ANTIBIOTIC GEL
異物を抜き取ったあとに残る傷痕は、出血線・小のときと同様にヒールゼリーを塗って治療する。